

○新公立病院改革プランについて（地域医療構想関係部分抜粋）

愛知県がんセンター愛知病院

【地域医療構想を踏まえた役割】（P24、P48～P50）

地域がん診療連携拠点病院として、三河地域におけるがんの中核的役割を果たすため、地域の医療機関との連携・協力体制を強化し、高度で良質ながん医療を提供するとともに、地域緩和ケアセンターを中心とした緩和ケア機能の一層の充実を図る。

<がんに対する高度・専門医療の提供>

- 乳腺サロン、リンパ浮腫外来、遺伝カウンセリングを継続実施し、常勤の形成外科医を採用することで、乳房再建を含めた乳がん治療のセンター化を図る。
- 放射線治療機器を始めとする高度な治療や検査を行うことのできる医療機器の整備・更新に努める。
- 遠隔病理診断システムによる術中迅速診断及び病理検体の診断チェック及び症例検討、ゲノム医療、バイオバンク事業、遺伝子診断など、がんセンター中央病院との人事交流を含めた連携を強化する。
- 岡崎市民病院との連携、協力体制の更なる強化を図るため、新たに協議会を設置し、今後の両病院の医療連携のあり方等について幅広く協議していく。
- 地域連携クリニカルパスの運用など、地域の医療機関と連携し、地域住民への良質ながん医療を行う。

<緩和ケアの推進>

- がん患者の状況に応じて疼痛等の緩和を目的とする医療を早期から適切に提供する。
- 在宅医療や看取りの体制の支援、緩和ケア地域連携クリニカルパスの運用を実施し、がん患者や家族向けの新規プログラムを実施するなどし、がん患者の地域包括ケアの中心的な役割を果たし、専門的がん診療との両立を図る。

<政策的医療の提供>

- 結核、感染症、へき地医療支援といった地域に必要な政策的医療を引き続き実施する。
- 結核については、クリニカルパスの活用により、効果的・効率的な医療を提供する。

【再編・ネットワーク化の必要性の検証】（P83）

- 岡崎市民病院との連携、協力体制の更なる強化を図るため、新たに協議会を設置し、今後の両病院の医療連携のあり方等について幅広く協議していく。
- 入院から外来へ、外来から在宅へという流れに対応するため、地域連携クリニカルパスの活用やサポート問診票の活用など、地域の医療機関との医療連携体制の強化を更に推進し、患者のニーズに的確に対応した治療を提供する。

【数値目標について】（P55）

成果指標	単位	27年度	28年度見込	29年度目標	30年度目標	31年度目標	32年度目標
新外来患者数(結核を除く) (初診料算定数)	人	6,019	5,287	6,094	6,169	6,244	6,320
1日当たり外来患者数(結核を除く)	人	249.7	265.0	283.0	277.0	280.0	284.0
がんの新入院患者数	人	3,875	3,666	3,900	3,956	4,012	4,068
新入院患者数(結核を除く)	人	4,108	3,843	4,105	4,210	4,327	4,386
病床利用率(結核を除く)	%	65.8	58.5	67.2	68.5	70.4	71.2
手術件数	件	963	856	879	902	925	950
がんの手術件数	件	479	479	487	507	527	547
新入院患者数(緩和ケア 病棟)	人	301	286	312	312	312	312
病床利用率(緩和ケア 病棟)	%	90.6	89.6	95.0	95.0	95.0	95.0
緩和デイケア利用件数	件	1,781	1,825	2,100	2,100	2,200	2,200
緩和ケア 訪問診療件数	件	33	34	34	34	34	34
医療相談件数	件	2,591	2,600	2,600	2,600	2,600	2,600